

生物学的製剤を患者さんの20%強に投与、 関節リウマチの治療に大きな成果をあげる

埼玉県・かねこ内科リウマチ科クリニック

生まれ育った地で地域医療に貢献したいと開院

かねこ内科リウマチ科クリニックは、2004年5月に開設された。埼玉県川口市出身の金子元英院長が、生まれ育ったこの地で地域医療に貢献したいと開いた医療機関である。金子院長はクリニックからほど近い川口市立医療センターにおいて、リウマチの専門医として活躍してきた経緯もあり、このエリアで継続的に診てきた患者さんのためにも、現在の場所を選んだという。開院から4年目に入って、患者さんは順調に増え、川口市を中心に、戸田市や蕨市、草加市のほか、さいたま市南部からも来院している。これまでの歩みと今後について金子院長に伺った。まず、クリニックの概要をご紹介いただく。

「標榜科としては、内科とリウマチ科のほか、呼吸器科とアレルギー科を掲げています。このため、さまざまな疾患の患者さんがいらっしゃいますが、メンタル面に不安を抱えて来院される方も多そうですね。リウマチ科については、川口市立医療センター時代からの関節リウマチ（RA）の患者さんが数多く来院され、また患者さんからの紹介によって来院される方も増えており、最近では“リウマチの専門的な治療が受けられるクリニック”という評判も定着してきたようです」。

RAの診断・治療に関しては、1日に10数人、1カ



かねこ内科リウマチ科クリニック



金子元英院長

月で250～300人の患者さんを診る。患者全体の5～6人に1人がRA患者だという。診断は問診をベースに血液検査、X線撮影、さらにはサーモグラフィも活用して、客観的、総合的に行っている。治療については、何よりもwindow of opportunity（治療機会）を重視している。

完全寛解に近い状態まで改善した例も

「RA治療では、関節破壊が進行していない段階で、早期に積極的治療を行うことが、きわめて重要です。これにより、昔とは違って寛解状態にまで症状を改善できることも多いので、治療機会を逃さないことを徹底しています」。

具体的には、メトトレキサート（MTX）やレフルノミドなどの抗リウマチ薬（DMARDs）を使うほか、特に生物学的製剤を重要視して、投与が適当と思われる患者さんには積極的に使っている。

「患者さんの20%強、約60人にインフリキシマブ（レミケード®）などの生物学的製剤を使用しています。使用比率はアメリカ並みの高率ではないでしょうか。ただ、積極的に使うといっても、投与が適切かどうか、あらゆる面から慎重に見極めます。Steinbrocker stage IV、低蛋白血症、アルブミン濃度が低い、痩せている——このような人にはリスク・



点滴スペースには、ベッドとリクライニングチェアを用意。カーテンで仕切ってプライバシーを確保している

ベネフィットを考えて、投与は控えることが多いですね。その逆なら、たとえば、症状がstage IIで、ふくよかで割と元気な方なら、ご高齢であっても腎機能や心機能をチェックした上で、使用することもあります」。

効果については、全国的なデータにも合致して8割に認められるという。

「症状が大幅に改善されて、DAS28が低活動性のレベルになった人は数十人いらっしゃいます。さらに生物学的製剤の投与を中止できた人、つまり、ほぼ完全寛解といえるまで回復した患者さんも2人います。この結果をみれば、その効果は顕著であるといえます。脳外科の分野では、頭を開けずに放射線で脳血管障害などを治療するガンマナイフという治療法が開発されて、革命的、画期的と脚光を浴びましたが、私は“生物学的製剤はRA治療におけるガンマナイフである”と思っています」。

患者さんを救うための社会的支援も求めたい

今後も、生物学的製剤については明らかにMTXで症状を抑えられる人や、効果がみられない一部の患者さんを除き、積極的に使用して、できるだけ多くの人を救いたいという。ただ、コストの問題で使用を躊躇する患者さんもいるため、行政などの支援を求めたいとも語る。

「正直に言えば、費用の問題で生物学的製剤を使えない方もいらっしゃるのです。そんな患者さんをフレキシブルな対応により援助できる制度を整え

よいなと思います。患者さんの中には、病気を治してバリバリ働きたいと切実に考えている方が大勢いらっしゃいます。行政や医療関係者が知恵を出し合って、そういう人たちをサポートする方法を確立できればと考えています」。

クリニックのこれからのについては、まずさらなるクオリティのアップを目指したいという。

「将来的には、非常勤医師を迎えるなどして対応力を強化し、患者さんを待たせずにスムーズに診断・治療ができるようにしたいと考えています。その上で、理学療法も積極的に取り入れた、パラメディカルな形での医療施設の充実を図りたいと考えています。RAを長く患っていると、血行障害による手足の冷えなどに悩むようになる方も多くいます。そうした方々には運動療法を指導するなど、患者さんの健康をトータルに捉えていきたいと考えています」。



スタッフとともに、左から院長、根本看護師、森田さん